

週刊文春様

突然の傳りを失礼致しませう。

私は貴誌の一読者ですが、このところ醫心から
近藤誠氏と長尾和宏氏とのサルカニ合戦の折紙
記すと毎回、近藤氏への怒りを封う挿読して存続
文春様は両氏の取材を本に記すにこそおられたら
近藤氏の患者に接する素顔を世に示すべく、
それはセカントオピオイドという名の毒元にも及ばぬ
とりつく島の叫びを聞き終りても救われずに、心身の寿命の
告知の場ではありませぬ。あくまでも個人の体験談
ではありませぬ。

定は、私の夫が今春、膀胱がんを診断され

東京医科大学病院にて内視鏡手術。まよひBCG
の副作用を受け、早期にたなすけり完治したのか
何分にも膀胱がんは再発。転移しやすいがこと言われる
通り、四カ月前、腎盂とリンパに転移する影があること

言われ、C.Tの結果、抗ガン剤治療と摘去手術を受け、
結果になりました。その時、たまたま近藤氏の事を確証で
知った私は、何とか抗ガン剤や手術をせざるに治す可
はできなかったらうかという一心でセカンドオピニオンを
受けるため、近藤氏の居る慶応病院を訪ねました。
その時の予約の電話も「近藤先生はもうお休みの日
二ヶ月休まっています」と受け度はずなりと
断られました。だが、夫の知らせか、試みにもう一度電話を
すると、幸か不幸か、今度は「今一時的にキャンセルが
たので、明朝一番なら」という返りで、急でいたが、
夫とふたり、翌朝一番のりで病院に向いたのです。
待ち時間もなく、すぐに呼ばれ、地下の薄暗い部屋で
近藤氏にお会いしました。これまでが流れと現状、
東京医大で抗ガン剤治療と手術を受けざるに治す
という事、早稲田の一番良い方法なのかという事

ことを伝えると氏の第一声は

「そんぱりぶ来たのか」抗がん剤はやってもやらなくても

寿命は同じ！と吐き捨てるよりおれと言、この砂漠

のように乾いた言葉に耳を疑い心は凍りつきました。

近藤氏には「まあ好い」そんな事でも「苦いおの狭間で

患者達は「そんなこと」で必死に先生に縋るのです。

遙々訪ねて交わった会話はそれだけ。「抗がん剤は

やってもやらなくても寿命は変わりません」と書いた紙と

中自分の本の病院の売店で売られてゐるから買って読む

ように。三月に青山に自分の病院（セカンドオピニオンのみ）

を開設するのでもっとよく診てもらいたい人はそこへ来

れば時間を取ります云々というまう紙を数枚

渡された。結果、宣伝ばかりをされた形で、私は

こんな人にわざわざ会いに来たのかと思うと情けなく

3.

夫を連れて来てしまった事を非常に後悔しました。

極めつけず「先生の傍には拝読させていたいままで」と
 申し上げた時、信じられぬ言葉が返って来たので、
 「ああ、あれは名前を売るため」とぬりく〜と笑い
 ながら、近藤氏があまりに悩んでいる沢山の傍には
 決してせのため、患者のためだとではなく、あくまでも
 自分分の利益を、名誉を得るための手段でしか
 ないのかも知れません。お目にかかる昨日まで、患者の
 立場にたり、命を救う事に懸命になられていた医師と
 して尊敬申し上げていた私と夫は愕然とし、五分も
 せぬうち、逃げるように診察室を後にしました。
 近藤氏の作機嫌が良くはなかったか、いつも女の顔の方
 なのかわかりませんが、私が前日に予約が取れた事も
 面白くなかったです。「フーン、昨日予約が取れたの……」
 と何故か不満な様子で「自分には本当はこんな
 簡単な会えな〜んだ」という心の声は聞こえて来りよう
 でした。

何の私達が失礼するでもしましたか？ 近藤さん？
何様ですか？ そんなに偉い人には見えませんけれど…
セカンドオピニオンと云うか不快さばかりを不金で買って
怒りを一杯でした。

たまたま人と違う見解を世に発表してマスコミや
著名な有名に居た人間の本性を見た自心です。また
一棟の希望を刺して足を運んだ夫が嵐の毒で居ました。

私達には難し… 存在は何ものりません。しかし確定に
言えぬのは医師と患者を信頼してこそ。たまたまとつ
命を委ねられるということ。今と居るほこん人向として
心の欠片もない人か何故 先生と言われ世に罷り
通っているのかお知りません。私自身もある時期。

変な宗教のような近藤氏の言葉に洗脳され
無礼にも巨大の担当医師に「放置」という方法は…？
と伺った可いあるのだが「今年令也病状にもより

ますが、... さんには選抜肢はあります。甲の方

良いですよ！と即座に言い切られました。事実

先生がお書まになった紹介状を持って近藤氏を

訪ねた患者さんの多くが治療を受けに度々来られ

るのだそうです。

こちらに夫はよく抵抗が治療を受け、予定を

終了した時にはがんが見えなくなって小さくなり、aとbは

消えていきました。副作用がほとんどなかった事も幸いして

今では大変元気に過ごして居り、おとほ摘虫手術を

待つことの暇です。これも偏に親身になってガイド

ラインに添った治療計画を練り、家族のように入り

添って下さった先生方の努力に他なりません。

近藤医師のすべてを否定するのはありません。

しかし、大それたお褒めにのり言葉。「がんもとき」p. 3

むよほ、お達書人の判断するべきものでなく、きちんと

専門医を訪ねるべきです。何故なら近藤氏は
あれこれ好き勝手なるを真しやかにして「癡言」を
いつてもセカンドオピニオンのみ。という微妙な立場。故に
最終的には何も責任を付てくれない誤りばかりし。
許されるべき。治療もせず放置するのが良し。たと
いに結果。とり返しがつかないに陥り。元気でいらした
それは本物のガンだったと言おうのでしよう。長尾医師の
おっしゃる「あとをいじまん」は実在的を射てんぞ。
よくぞ言っておきた。と留飲の下りる思いです。
早期発見が命を縮める。ほど考えられませぬ。
かこという病を抱え。あれこれ悩み。ワラをも掘出思
て先を求めしる。あつきの患者さん達か。どうか放置など
という不確かな選択で命を落とすことなとありませぬより。
声を大にして言いたいたす。近藤氏はそのワラミを
抗がん剤であり。ワラをつかんで弱れ死んで行く。治療を

受けた者は抗がん剤や手術で後悔を招く位と
 驚くばかりの持論を展開された。現に夫は
 近藤氏が「ワラ」と呼ぶ化学療法之恩恵に与り
 私共夫婦に感謝こそあれ、微塵の後悔もありません。
 本当に不幸なのは間違、た選抜です。「羊の皮を着た
 才力カミ」とは地位と名誉が人の命よりも大切な近藤氏
 自身に他存する位の「下け」と、読書を読み、思ひす
 笑ってしまふ事だ。

辛いなりに、私のまわりには早期発見で治療を受け
 今や元気に活躍している友人、知人が沢山あります。ど
 何よりもの救いになっていきます。

黙って居る暇も、思いつくまゝ、いろいろと連絡まじりに
 無、気をと許して下さい。読み捨て、ただければ幸いです。
 社益の発展を祈ります。

